

# ポエムの窓

文・高安義郎

## 鉢と紙

北原 政吉

いまさら憶<sup>おも</sup>う

あのころは どうしてあんなに

楽しかったのであろう

じゃんけんぽん

じゃんけんぽんの 鉢と紙で

あなたとわたしは

いっぽ いっぽ 遠のいていっただ

この作品『鉢と紙』はジャンケン

のハサミ、つまりチョキとパーで

す。子供の頃遊びの順番などを決めるのにジャンケンは良くやりました。ジャンケンそのものでも遊びました。紙、つまりパーで勝つ

と結んでいますが、「あなたの

は、少年時代の思い出そのものや幼なじみと考えてもいいでしょうし、恋人とも考えられます。あるいは子供の頃抱いた夢や、理想とした生き方をさしているとも言えるでしょう。それがいつの間にか現実の中にまぎれ、夢の彼方に遠のいてしまったのです。一見頭の中を素通りしてしまいそうなやさしい作品ですが、読者の胸に多くのものを想わせます。

詩というものはパズルでもなければソクラテスの言うイデイアの世界を覗くと言ったような小難しいものではありません。あくまで

も心を癒やす歌なのです。恥ずか

今回紹介させて頂いた作品は、私の、詩の先生のお一人とも言うべき大先輩北原政吉さんの詩です。

ーあのころは どうしてあんなに楽しかったのであろう

と昔に思いを馳せています。あの頃とは当然子供の頃ですが、子供の頃は今日の糧をどうしようか、などという煩わしいことは考えていません。ともかく今を遊ぶことだけだったからでしょう。作者もそれは分かっているはずですが、それで「どうして」と自問しています。それがこの作品の考え方せら

れる所なのです。そして最後に、

ーあなたとわたしは

いっぽ いっぽ遠のいていっただ

この作品の作者北原政吉さんは

平成一七年に九十七歳で亡くなられました。幼少時代に過ごした台湾との文学交流に力を入れられ、台湾の詩人達と多くの作品を残されました。また千葉県詩人クラブの創設にも尽力され、このクラブは現在百数十名の会員を持つ大きな会に成長しています。

北原さんの残された詩集には次

のようないものがあります。

この他北原政吉詩集といった全

集や、戦時中に栄養失調で逝った

まま娘を悼む、心搖さぶられる詩

集『笙子』などもあります。折に触れてまた紹介させていただこう

と思います。

しながら私はようやくそれに気づかされました。北原先輩の声がやっと耳に届いたと言えるのかも知れません。しかも身近なジャンケンで気づかされたことが、私は何より心温まる思いです。

これは余談ですが、ジャンケンはそんなに古いものではなく明治の始め頃に広まった日本独自のものようですが、今では諸外国のままで普及し始めていると聞いています。

『華麗島詩月紀行』

『酋長シバの歌』

『署名のない絵』

『候鳥』

『影』

『龍』

『はんぐりいの歌』

ひとりで悩まず相談しよう！青少年相談機関のご案内 子ども家庭110番 ☎043-252-1152  
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/soudan/kodomo.html> (千葉県各種相談窓口(こども))